

「日本を開国させた男、松平忠固」 関良基 著 を読んで

既読の方もおられることとは思いますが、同期の皆様には、真田、仙石の後の上田松平藩主に、幕末期に老中を2回も務め素晴らし業績を残されたが、殆ど知られていない六代藩主、松平忠固(忠優)公がおられたことを是非知っていただきたく、投稿致します。

開国を断行したのは、井伊直弼ではない、松平忠固である
日米修好通商条約は不平等ではなかった

些か、過激な様に思えますが、事実です

6月末に、関良基氏(上田高校86期)により上梓された「日本を開国させた男、松平忠固」を読んだので感想を投稿いたします。私の先祖が上田松平藩の御典医であり奥医師を務めた関係で、私は上田松平藩士の子孫を中心としたメンバーよりなる「明倫会」の会長の任にあります。「明倫会」としては、この本の「あとがき」にも述べられているように、かねがね忠固公をテーマにした講演会やトークセッションなどを開催してきていたので、忠固公についての立派な一冊ができたことは望外の喜びであります。

そんな立場にいる私ですので実に爽快な気分になってくれた一冊であり、殆ど世の人々に知られていない忠固公が多くの人に認知されるきっかけになってくれればと思っております。既に、猪坂直一氏により書かれた「あらしの江戸城」、「あとがき」に登場する本野敦彦氏により作成された、忠固公を主人公にした「邪老中」という映画と大河ドラマ用のシナリオを読んでおりましたので登場人物の掌握は概ねできており楽しく読ませて頂きました。歴史的検証と筆者の関氏の個人的コメントにより、幕末の開国にあたっての実際が、今まで教科書等で当たり前とされてきたものとは違っている点があることがハッキリ致しました。その中の大きな2点は、日米修交通商条約は不平等条約とされてきましたが、不平等どころか当初(後からイギリスが絡んできてから違った)は、日本に大変有利な条件下、輸入関税が20%というものであり、中国のように英国からの不平等な関税によりアヘン戦争にまで陥ることもなく無事開国できたと言い切れます。この関税の交渉は忠固の忠臣が取り扱ったものであり、それは、忠固の指示があったことは想像に堅くありません。また、日本を開国させたのは井伊直弼とされ、直弼が勅許も得ずに強行開国したことになっていましたが、実際には忠固公と佐倉藩の堀田正睦公によって取り進められ開国に到ったのです。著者が検証した教科書、育鵬社の中学生歴史教科書「新編 新しい日本の歴史」、山川出版社の高校教科書「新日本史B」両書共、日米修好通商条約は、清国が結んだものと同様な不平等条約であったと記載されており、これは明治政府を神格化、江戸幕府より秀でた政治をしたと民衆に知らしめるために、明治政府が吹聴したものと解釈しています。井伊直弼は、口では開国と言っておいて、開国を妨害する言行不一致の人物であったことが明らかになりましたが、彦根の人々にとっては英雄であろう直弼の開国へ向けての教科書的な有り様を否定するものであり、忠固公を広く知ってもらいたいのは山々

ですが、彦根城関係者との軋轢が生じることが危惧されます。また、本文中では、かなり激しく水戸斉昭公の行動批判が記載されているので、水戸市民の感情を思うと心配です。いずれにしろ、忠固公の存在を知って貰おうとすれば、正しい江戸幕末の状況を明らかにしようとすれば、彦根にも水戸にも喧嘩を売るような形にならざるを得ないと思います。一方、地元上田では知人に忠固公を知っているかと尋ねても、ご多分にもれず殆どの方は名前さえ知らず、僅か数名が確か老中を務めた人かなぐらひの返答で、2回の老中、開国に尽力したこと、生糸の輸出を先駆けたことなどは全く知らない状況です。また、地元上田では、真田一族と比べて何故人気が無いのかという疑問が湧いてきます。僅か15年ぐらひしか上田城に居なかった真田が人気があったのは、一言で真田は土着の士族であったからと片付けられることが多かったように思います。160年も続いた上田松平藩の藩主は、他の地からの養子縁組で継承されてきたことが多く、民衆との距離があったことが想像されます。忠固公も姫路酒井藩からの養子であり、江戸生まれで上田出身ではありません。しかし、藩主であった前半には、時々お国入りし民の暮らしぶりを視察し、藩のあり方を模索、特に、天保の大飢饉の際には、全国的に減らされた石高減少に合わせて、家臣の祿米を40%下げ、その分を民衆に回したり飢餓対策を行い「上田伊賀様お情け深い、天保八年酉年に、越後高田へ玄米を、駒につけさせ蔵につみ、あまた百姓おん救い」と謳われ、飢餓死亡者を出したという記録はないそうです。大飢饉以前にも藩の財政逼迫に参勤交代の費用がかからないようお国入りを自粛していた様です。その後は、幕府の要職を歴任する様になった為、上田に戻ることができずに亡くなってしまったので、人気の出ようがなかったのでは無いかと思われます。

いずれにしろ、この投稿は松平忠固を同期、同窓の皆様幅広く知って頂きたい為であり、立場上お付き合いのある、松平家の末裔(昔ならお姫様)であられる鎌倉在住の浦辺信子さんの悲願「高祖父の忠固公に関しましては歴史的に真実でないことが認識されている。横柄、威張っていたとか、確かにそういう面はあったかもしれないが、歴史的に行った事実を、決して美化するのではなく、どういう考えで、日本をどういう方向に引っ張っていかうとしたのか、その真実を皆様に知っていただきたい」を達成させ、悪評を払拭したい為でもあります。事業ではありませんが、忠固公の誠実さを表すのに賄賂は絶対に受け取らなかったことも挙げられます。幕末の幕閣は大老の地位をめぐって、福井藩、彦根藩などから何度も金品の賄賂が渡されようとしたましたが、家臣共々一切受け取らなかったという事実があります。また、世俗な話ではありますが、男っぷりが良い？為か大奥に評判の悪い水戸斉昭公と敵対関係にあった為か、忠固公は大奥に人気があり、それ故、将軍家定とも親かったであろうことが記載されています。

上記の様なエピソードを含んだ映画、大河ドラマ用のシナリオが前記の本野敦彦しにより作られており、彼の開設するホームページに <https://www.matsudairatadakata.com> 開国の父 老中・松平忠固史 もアップされています。筆者が述べている様に大河ドラマでも十分楽しめる充実した内容ではありますが、数年前に真田丸が放映されたばかりなので実現は中々難しいが何とかならないものだろうか？筆者が「あとがき」の最後に忠固公が知られないのは、日本の不幸であると綴られたように――

関良基

日本を

開国させた男、

松平忠固

近代日本の礎を築いた老中



“開国”を断行したのは、井伊直弼ではない

大好評
幕末維新の真実
第2弾

誰よりも海外情勢を認識し、徳川斉昭や井伊と対立して開国・交易を推進。そして養蚕業の輸出の基盤を造った松平忠固。その歴史的真相と実像を初めて明らかにする。